

第 51 回 (2022 年度)
三菱財団人文科学研究助成
応募要領

1. 助 成 の 趣 旨

成熟社会における多様性に注目が集まる中で、教養教育の重要性が指摘され、「心の豊かさの醸成」がより求められる時代を迎えています。

本財団では、学術研究助成の一環として、人文社会系領域での基礎的かつ着実な実証研究を支援します。

2. 助 成 の 概 要

人文科学研究助成において、通常的人文科学研究助成（以下、「一般助成」という）に加え、「社会的課題解決のための大型連携研究助成」（以下、「大型連携研究助成」という）を行います。なお、本財団は男女共同参画社会基本法の趣旨に賛同しております。

<「大型連携研究助成」について>

「大型連携研究助成」として、異なる専門領域の複数のメンバーの方がチームを形成し、同一の社会課題解決のため、より多角的に、連携してダイナミックに挑戦する提案型の応募に対する助成を実施します。「大型連携研究助成」の応募につきましては、助成金額、期間等について、より柔軟に対応します。既成概念を破るチャレンジに期待します。

「大型連携研究助成」の応募の場合、助成申込書入力時に該当欄にチェックを入れ、併せて助成申込書の「チームの体制」欄にチーム構成を入力のうえ、申請して下さい。

なお、「大型連携研究助成」にあたるか否かについては、ホームページにあります

「社会的課題解決のための大型連携研究助成について」を参考の上、ご判断下さい。

① 研究分野

人文学分野、及びそれに関連する分野からなる、人文社会系研究全般を対象とします（申込分野コードとして 2018 年度の科学研究費の審査区分を使用しています）。

なお、応募頂く研究については、倫理、個人情報保護等の法規定や精神を十分に踏まえたものであることの説明が必要です。

② 応募資格

イ. 原則として、特定のテーマの、個人ないしは少人数のグループまたは法人・団体による研究とします（「大型連携研究助成」の場合は複数の領域の研究者（実践者）のチームとなります）。応募者の国籍等は問いませんが、当該代表研究者が日本国内に居住し、かつ国内に継続的な研究拠点を有することが必要です。

ロ. 営利企業等及びその関係者は、代表研究者、申込法人・団体及び協同研究者になりません。

- ハ、代表研究者及び協同研究者は、本財団の同一年度の助成に複数応募することは出来ません。従って、代表研究者が（他分野も含め）他の応募案件の協同研究者を兼務したり、協同研究者が他の応募案件の協同研究者を兼務することも出来ません。

（協同研究者の方には上記の確認も含め、必ず了承を得ておいて下さい。）

なお、複数応募が判明した場合は、失格となることがあります。

③ 助成金額

「一般助成」「大型連携研究助成」合わせて総額約 6,000 万円を予定、採択予定件数は合計 25～30 件程度を目途とし、うち「大型連携研究助成」は 1～2 件程度を目途とします。応募金額については、「一般助成」は 1 件当たり上限 500 万円、「大型連携研究助成」は 1 件当たり上限 1,000 万円とします。他方、「一般助成」においては、研究の性質上比較的少額で足りる内容のものも充分考慮されます。また、「大型連携研究助成」は、審査の結果採択のない場合もあります。

④ 助成金使途

「一般助成」「大型連携研究助成」共に応募対象研究に必要な書籍、文書、設備・備品、消耗品の購入費等とします。なお、代表研究者・代表者に、助成金使用に係わるすべての管理責任を持って頂きます。

イ、旅費は、代表研究者・代表者及び協同研究者への支払いのみ可能です。

ロ、研究上特に必要な場合は、研究補助者への謝金支払いを可とします。なお、代表研究者・代表者及び協同研究者については、謝金・人件費の支払いは認められません。

ハ、印刷・製本・出版関係費用も、本研究に関わるものに限ります。

（なお、出版のみを目的とした申込、または申込金額の大半を出版費用が占める申込は対象外となります。）

ニ、なお、応募者が所属する組織等の間接経費・一般管理費等は助成の対象になりません。

⑤ 助成期間

助成期間は 1 年を原則としますが、事情により期間 2 年にわたる使用も認められます。

なお、「大型連携研究助成」においては案件内容により期間 3 年まで認めることもあります（複数年度分の助成申込を一括査定し、助成金は各年に分けて使用されることとなります）。

3. 応募期間

2021 年 12 月 15 日（水）～ 2022 年 1 月 12 日（水）午後 5 時

*上記応募期間内にのみ応募は可能です（締め切り時間厳守のこと）。なお、応募締め切りの直前は、WEB システムの回線が混雑して送信できない可能性がありますので、お早めにご応募下さい。

4. 応募方法

応募にあたっては、別冊「応募手順」に基づき、本財団インターネットホームページ（以下、本財団ホームページ）上の

システムでマイページの登録のうえ、手順に従って WEB システムで応募して下さい。

[ホームページアドレス] <https://www.mitsubishi-zaidan.jp>

<応募手順>

- ① マイページの登録
- ② 「助成申込書」の入力・作成
- ③ 「助成申込内容」の作成及びアップロード
- ④ 「最重要論文」のアップロード
- ⑤ 「定款、パンフレット等」のアップロード
(法人・団体申し込みの場合、法人格を有する申請者は定款を必須とします)
- ⑥ 所属機関長承諾書のアップロード（個人申込みで所属機関のある申請者の場合）
- ⑦ 応募申請と受付の確認

<ご注意>

- * 本財団ホームページ上の WEB システムでの申請のみで応募は完了となります。
(電子メール、郵送、ご来所、FAX による応募は受け付けておりません。)
- * 応募完了後は助成申込書、助成申込内容、論文の修正・差し替え等は一切できません
ので、応募の申請にあたっては必ず内容をご確認下さい。
- * 「ご応募の際によくある質問と回答」を本財団ホームページ上の「応募 Q&A」に掲載
していますので、ご参照下さい。
- * WEB 操作に関するお問い合わせは、原則メールで、
「ヨシダ印刷株式会社 三菱財団サポート担当」
E-mail. mitsubishi-zaidan@yoshida-p.co.jp
Tel. (03) 3626-1307 (平日 午前 9 時～午後 5 時)
までお願いします。その際、マイページを取得されている場合は、ログイン ID を記載
して下さい。

5. 選考方法・結果通知等

① 選考方法

財団委嘱の下記委員からなる選考委員会において慎重審議の上、その答申案に基づき、
2022 年 6 月開催予定の財団理事会において正式決定されます。審査の進捗状況について
のお問い合わせには、回答致しかねますので、ご了承下さい。

(選考委員)

谷 本	雅 之 (委員長)	岩 波	敦 子
石 川	禎 浩	福 永	伸 哉
下 田	正 弘		

(敬称略)

(専門委員)

助成申込の内容によっては適宜専門委員を委嘱します。

② 選考協力等

所定の申込書、資料に加え、更に詳しい書類等の提出等、選考へのご協力をお願いすることがあります。(ご提出頂いた資料等は返却致しかねますので、あらかじめご了承下さい)

③ 面接

大型連携研究助成については、選考の一環として助成の候補となられた方に面接を実施することを原則とします。一般助成についても、必要と判断された場合、面接を実施することがあります。面接には、原則として代表研究者の方、及び連携される協同研究者がおられる場合は協同研究者の方等1~2名の方にご出席頂きます。2022年度の面接日は2022年4月12日(火)を予定しています。なお、面接対象となられた方には3月25日(金)までにメールでご連絡させていただきます(面接対象となられなかった方へのご連絡はありません)。

また、面接連絡の有無、審査の進捗状況についてのお問い合わせには、回答致しかねますのでご了承下さい。また、新型コロナウイルス感染症の状況により、面接日、面接方法等が変更となることがあります。

④ 結果通知等

- イ. 結果は決定後すみやかに申込者各位宛にメールで通知されます。なお「助成先一覧」は、本財団インターネットホームページ上に掲載するほか、各種学術関係広報資料(科学新聞、学会ニュース等)にも掲載を依頼致します。
- ロ. 採否の理由についてのご照会には一切回答致しかねますのでご了承下さい。

⑤ 助成決定時の義務・条件

- イ. 選考の結果、助成対象者となられた場合は、財団所定の「助成承諾書」を提出頂き、これにより研究経過・完了の報告、収支会計報告、その他使途変更事前相談手続等の義務を負って頂きます。
- ロ. 研究の経過・完了報告については、「助成承諾書」において、その一般公開についての同意をお願い致します。
- ハ. 助成金贈呈式を2022年9月12日(月)に予定しています。贈呈式には助成金受領者ご本人にご出席頂くことになります。原則、代理出席は認めておりません。

6. 個人情報取扱いについて

- ① 個人情報は利用目的の範囲内で、かつ業務遂行上必要な限度内で利用致します。
- ② 法令等の定める場合を除き、事前に本人の同意を得ることなく個人情報を第三者に提供致しません。
- ③ なお、応募頂くにあたってWEBシステムに入力頂いた情報について、本財団のWEBシステムを運営するシステム会社が取り扱うことにご同意頂いたものとします。

7. 反社会的勢力からの応募について

反社会的勢力および反社会的勢力と関係すると認められる個人もしくはグループからの応募は受け付けられません。

8. お問い合わせ先

お問い合わせは、原則メールでお願いします。なお、マイページを取得されている場合は、ログイン ID を記載して下さい。

公益財団法人 三 菱 財 団 事務局

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 2 丁目 3 番 1 号 (三菱商事ビル 21 階)

E-mail. info@mitsubishi-zaidan.jp

Tel. (03) 3214-5754

追記 参考資料として、過去 3 年度分の助成先一覧を添付します。

応募件数と同金額は以下の通りです。

2019 年度 391 件 1,205 百万円(うち大型連携研究助成 36 件 306 百万円)

2020 年度 308 件 850 百万円(うち大型連携研究助成 21 件 174 百万円)

2021 年度 196 件 497 百万円(うち大型連携研究助成 4 件 36 百万円)

以 上

2021 年 11 月

公益財団法人 三 菱 財 団

2022年度人文科学申込分野コード一覧表

大区分	中区分	小区分	コード
A	1 思想、芸術およびその関連分野	哲学および倫理学関連	01010
		中国哲学、印度哲学および仏教学関連	01020
		宗教学関連	01030
		思想史関連	01040
		美学および芸術論関連	01050
		美術史関連	01060
		芸術実践論関連	01070
		科学社会学および科学技術史関連	01080
		デザイン学関連	90010
	2 文学、言語学およびその関連分野	日本文学関連	02010
		中国文学関連	02020
		英文学および英語圏文学関連	02030
		ヨーロッパ文学関連	02040
		文学一般関連	02050
		言語学関連	02060
		日本語学関連	02070
		英語学関連	02080
		日本語教育関連	02090
		外国語教育関連	02100
	3 歴史学、考古学、博物館学およびその関連分野	図書館情報学および人文社会情報学関連	90020
		史学一般関連	03010
		日本史関連	03020
		アジア史およびアフリカ史関連	03030
		ヨーロッパ史およびアメリカ史関連	03040
		考古学関連	03050
		文化財科学関連	03060
		博物館学関連	03070
	4 地理学、文化人類学、民俗学およびその関連分野	地理学関連	04010
		人文地理学関連	04020
		文化人類学および民俗学関連	04030
		地域研究関連	80010
		観光学関連	80020
		ジェンダー関連	80030
	5 法学及びその関連分野	基礎法学関連	05010
		公法学関連	05020
		国際法学関連	05030
		社会法学関連	05040
		刑事法学関連	05050
		民事法学関連	05060
		新領域法学関連	05070
	6 政治学及びその関連分野	政治学関連	06010
		国際関係論関連	06020
		地域研究関連	80010
		ジェンダー関連	80030
	7 経済学、経営学及びその関連分野	理論経済学関連	07010
		経済学説および経済思想関連	07020
		経済統計関連	07030
		経済政策関連	07040
		公共経済および労働経済関連	07050
		金融およびファイナンス関連	07060
		経済史関連	07070
		経営学関連	07080
		商学関連	07090
		会計学関連	07100
		観光学関連	80020
	8 社会学及びその関連分野	社会学関連	08010
		社会福祉学関連	08020
		家政学および生活科学関連	08030
		観光学関連	80020
		ジェンダー関連	80030
	9 教育学およびその関連分野	教育学関連	09010
		教育社会学関連	09020
		子ども学および保育学関連	09030
		教科教育学および初等中等教育学関連	09040
		高等教育学関連	09050
		特別支援教育関連	09060
		教育工学関連	09070
		科学教育関連	09080
		日本語教育関連	02090
		外国語教育関連	02100
	10 心理学及びその関連分野	社会心理学関連	10010
		教育心理学関連	10020
		臨床心理学関連	10030
		実験心理学関連	10040
		認知科学関連	90030

第48回（2019年度）三菱財団人文科学研究助成先一覧

【大型連携研究助成】＜50周年記念特別助成＞

番号	所在地	名 称	使 途	金 額
1	東京都	公益財団法人東洋文庫研究部 研究員 飯島 渉（いいじま わたる）	20世紀後半の東アジアにおける風土病の制圧過程の検証と疫学的資料の整理・保存・公開	5,000,000円
2	東京都	首都大学東京大学院人文科学研究科 教授 丹野 清人（たんの きよと）	基礎自治体からアプローチする外国人労働者長期定住化時代における多文化共生社会の実践知	6,000,000円
3	東京都	国立成育医療研究センター分子内分泌研究部 部長 深見 真紀（ふかみ まき）	ヒトのこころの性の多様性とその修飾因子の解明	9,000,000円

【一般助成】

番号	所在地	名 称	使 途	金 額
4	東京都	東京大学文学部 助教 青野 道彦（あおの みちひこ）	上座部戒律文献の批判校訂版作成のための基盤構築	600,000円
5	東京都	東京大学大学院医学系研究科 教授 赤林 朗（あかばやし あきら）	「医療の目標」の現代的変遷とそれに関わる倫理的問題の研究	2,520,000円
6	石川県	石川県立看護大学看護学部 特任教授 浅見 洋（あさみ ひろし）	西田幾多郎ノート類資料の翻刻と研究資料化	1,440,000円
7	宮城県	東北大学大学院国際文化研究科 准教授 池田 亮（いけだ りょう）	英米覇権による「開かれた国際海洋秩序」の歴史的展開：「海洋の自由」の概念を中心に	2,000,000円
8	静岡県	静岡大学情報学部 助教 板口 典弘（いたぐち よしひろ）	ディープラーニング技術を用いた失語症患者の音声認識システム開発	1,220,000円
9	東京都	早稲田大学政治経済学術院 教授 稲継 裕昭（いなつぐ ひろあき）	中央政府における生産性測定に向けた指標の構築に関する研究	1,200,000円
10	北海道	北海学園大学経済学部 講師 牛久 晴香（うしく はるか）	アフリカ農村の輸出向け手工業の内発的な発展プロセスに関する研究	1,140,000円
11	東京都	東京大学社会科学研究所 准教授 加藤 晋（かとう すすむ）	社会思想と厚生経済学	2,100,000円
12	北海道	北海道大学大学院農学研究院 准教授 加藤 知道（かとう ともみち）	稲刈帳による近世のコメ収量復元およびその気候変動との関係の解明	900,000円

番号	所在地	名 称	使 途	金 額
13	埼玉県	一橋大学経済学研究科 名誉教授 加藤 博 (かとう ひろし)	砂漠に消えた革命 近代エジプトの遊牧民蜂起	1,600,000円
14	長崎県	長崎総合科学大学共通教育部門 准教授 木永 勝也 (きなが かつや)	戦後長崎における被爆者運動・平和運動に関する資料調査を通じた核・被ばく学研究の基盤形成	1,740,000円
15	東京都	一橋大学大学院社会学研究科 教授 小井土 彰宏 (こいど あきひろ)	後発的移民国の社会統合政策の比較—スペインと日本における多文化共生政策の制度化と実践を焦点として	1,440,000円
16	京都府	京都大学大学院経済学研究科 准教授 高野 久紀 (こうの ひさき)	経済発展と市場の発達：マダガスカル の米市場における仲介業者の機能	3,000,000円
17	京都府	佐竹 真城 (さたけ しんじょう)	中世浄土教の研究—称名寺聖教の未翻刻典籍を中心に—	570,000円
18	東京都	公益財団法人東洋文庫 文庫長 斯波 義信 (しば よしのぶ)	モリソン・コレクションの学際的・総合的研究：近代東アジア史と「アジア文庫」形成の資料的分析	2,100,000円
19	神奈川県	神奈川大学外国語学部 准教授 鈴木 祐一 (すずき ゆういち)	多文化共生社会のための移民の日本語習得に関する縦断的研究：学際的アプローチ	2,820,000円
20	東京都	日本大学通信教育部 教授 高綱 博文 (たかつな ひろふみ)	修正主義的歴史観に抗する「グレーゾーン」研究：アジア・欧州の国際比較と実証分析	1,500,000円
21	京都府	鄭 祐宗 (ちョン うちョン)	裁判資料を活用した占領期民衆社会史研究—阪神地域と関門地域を中心に—	600,000円
22	東京都	東京大学大学院人文社会系研究科 教授 陳 捷 (ちん しょう)	中国に渡った日本の版木とそれによる印本に関する総合的研究	1,500,000円
23	京都府	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 東長 靖 (とうなが やすし)	イスラームの多文化共生の知恵—周縁イスラーム世界のスーフィズムに着目して	3,000,000円
24	神奈川県	慶應義塾大学大学院社会学研究科 日本学術振興会特別研究員PD 中村 江里 (なかむら えり)	近代日本の精神医療アーカイブズを用いた学際的研究	3,000,000円
25	秋田県	国際教養大学アジア地域研究連携機構 准教授 根岸 洋 (ねぎし しょう)	縄文／弥生移行期の低湿地遺跡から復元する環境変動適応史	2,100,000円
26	滋賀県	滋賀県立琵琶湖博物館研究部 専門学芸員 橋本 道範 (はしもと みちのり)	日本中世淡水魚消費の研究	2,660,000円

番号	所在地	名 称	使 途	金 額
27	東京都	東京大学未来ビジョン研究センター 専任講師 華井 和代 (はない かずよ)	コンゴの紛争資源問題と性暴力に対する先進国の責任	3,000,000円
28	東京都	上智大学国際言語情報研究所 客員研究員 藤本 雅子 (ふじもと まさこ)	南琉球宮古島方言の音声の音響・調音特徴	600,000円
29	東京都	東京大学未来ビジョン研究センター 教授 藤原 帰一 (ふじわら きいち)	気候変動と水資源をめぐる国際政治のネクサスー安全保障とSDGsの視点から	3,000,000円
30	長野県	牧 義之 (まき よしゆき)	日本の戦前・戦中期における言論統制と市民の知る自由に関する研究ー公共図書館での閲覧制限措置を中心にー	1,500,000円
31	千葉県	国立歴史民俗博物館研究部 教授 松尾 恒一 (まつお こういち)	日本列島の山村における環境・生業と、信仰・民俗宗教の研究ー中国・四国地方の山村を中心に	630,000円
32	北海道	小樽商科大学商学部 教授 松本 朋哉 (まつもと ともや)	モバイルマナーを利用した教育支援マッチングファンドに関する実証研究：バングラデシュにおけるフィールド実験	2,500,000円
33	東京都	中央大学文学部 准教授 宮間 純一 (みやま じゅんいち)	地方公共団体における公文書管理の現状に関する調査・研究	2,500,000円
34	東京都	早稲田大学高等研究所 講師 八尾 史 (やお ふみ)	「根本説一切有部律」写本の研究	2,700,000円
35	東京都	早稲田大学商学学術院 教授 矢後 和彦 (やご かずひこ)	開発と経済成長のプロソポグラフィ	900,000円
36	京都府	京都府立大学文学部 教授 山崎 福之 (やまざき よしゆき)	万葉集と懷風藻を中心とする、日本文学における中国文学受容の総合的研究	600,000円
37	大阪府	大阪大学大学院文学研究科 教授 湯浅 邦弘 (ゆあさ くにひろ)	「天声人語」の名づけ親西村天四の見た近代日本	720,000円
38	東京都	東京大学大学院総合文化研究科 学術研究員 吉見 崇 (よしみ たかし)	戦後台湾の司法の独立をめぐる政治史的研究ー1950年代から60年代を中心としてー	600,000円
合 計				38 件 80,000,000円

第49回（2020年度）三菱財団人文科学研究助成先一覧

【 大型連携研究助成 】＜50周年記念特別助成＞

番号	所在地	名 称	使 途	金 額
1	京都府	龍谷大学文学部 教授 阿部 泰郎 （あべ やすろう）	地域と連携する宗教文化遺産の探査とアーカイブス化による文化遺産と社会の創成	6,000,000円
2	東京都	独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所無形文化遺産部 主任研究員 今石 みぎわ （いまいし みぎわ）	無形文化遺産における木材の伝統的な利用技術および民俗知に関する調査研究	6,500,000円
3	兵庫県	神戸大学大学院国際協力研究科 教授 柴田 明穂 （しばた あきほ）	南極のあるべき将来像：2025年日本開催会議にむけた総合的提案	7,500,000円

【 一般助成 】

番号	所在地	名 称	使 途	金 額
4	東京都	早稲田大学政治経済学術院 教授 稲継 裕昭 （いなつぐ ひろあき）	地方政府における生産性測定に向けた指標の構築に関する研究	2,100,000円
5	埼玉県	尚美学園大学大学院総合政策研究科 教授 奥乃 真弓 （おくの まゆみ）	AI・ロボットへの法人格付与における法的課題の研究	600,000円
6	京都府	立命館大学大学院社会学研究科 准教授 加藤 雅俊 （かとう まさとし）	環境紛争およびその処理過程がもたらした地域分断からの再生に関する研究 一輛の浦道路計画を事例として	850,000円
7	茨城県	筑波大学芸術系 教授 黒田 乃生 （くろだ のぶ）	茅葺き民家のグローバリゼーションー茅輸出中国の現状ー	1,200,000円
8	岡山県	ノートルダム清心女子大学文学部 教授 紺谷 亮一 （こんたに りょういち）	中央アナトリアにおける都市形成過程の考古学的研究：キュルテベ遺跡の発掘調査	1,800,000円
9	千葉県	中央学院大学法学部 専任講師 坂井 亮太 （さかい りょうた）	熟議・審議会・会議に誰を呼ぶべきかー集合知の数理モデル群に対するシステムティック・レビュー手法の構築	1,000,000円
10	東京都	東京大学医学部附属病院 助教 榑原 英輔 （さかきばら えいすけ）	精神科医療における認識的不正義	2,200,000円
11	東京都	東京大学大学院人文社会系研究科 教授 佐川 英治 （さがわ えいじ）	中国古代の立碑習慣と社会結合	800,000円
12	新潟県	新潟大学人文社会科学系 教授 佐藤 靖 （さとう やすし）	現代科学技術の歴史的構造の我が国における様相の解明	1,200,000円

番号	所在地	名 称	使 途	金 額
13	東京都	立教大学社会デザイン研究所 研究員 真田 尚剛 (さなだ なおたか)	陸上自衛隊にとっての旧軍と大戦一駐 屯地資料館の展示を手がかりに	1,000,000円
14	東京都	早稲田大学文学学術院 教授 嶋崎 尚子 (しまざき なおこ)	樺太引揚者の炭鉱移動と定着ーコミュ ニティ形成にみる経験の連続性	1,500,000円
15	東京都	東京工業高等専門学校一般教育科 講師 鈴木 慎也 (すずき しんや)	三次元計測による古代スリランカ貯水 灌漑遺構に関する基礎的研究	1,300,000円
16	東京都	東京大学社会科学研究所 特任研究員 鈴木 路子 (すずき みちこ)	近代日本の赤十字：人道概念の形成過 程と第二次世界大戦時救援活動を中心 に	3,900,000円
17	京都府	竹内 潔 (たけうち きよし)	アフリカ熱帯森林帯における民族間共 生の変容とレジリエンス	1,150,000円
18	東京都	早稲田大学先端社会科学研究所 准教授 鄭 成 (てい せい)	中国建国初期の中小学校教育における ソ連宣伝の形成とその受容	1,000,000円
19	京都府	立命館大学産業社会学部 准教授 富永 京子 (とみなが きょうこ)	政治に対する冷笑と無関心の戦後史ー 若者文化におけるメディア・コミュニ ケーションの視点から	1,100,000円
20	東京都	東京大学社会科学研究所 教授 中林 真幸 (なかばやし まさき)	民主主義の費用：政治献金の歴史制度 分析	3,200,000円
21	東京都	東京大学大学院総合文化研究科 准教授 中村 元哉 (なかむら もとや)	冷戦期の中国・香港・台湾におけるナ ショナリズムとリベラリズム：1970～ 1980年代を中心に	1,050,000円
22	愛知県	愛知県立大学外国語学部 准教授 西野 真由 (にし の まゆ)	台湾における外国人単純労働者受け入 れに関する実証研究ー日本の外国人労 働者政策構築に向けてー	1,200,000円
23	大阪府	関西大学商学部 教授 西村 成弘 (にしむら しげひろ)	日本企業の特許管理形成に関する基礎 的研究	2,400,000円
24	東京都	上智大学外国語学部 准教授 廣田 秀孝 (ひろた ひでたか)	アメリカ合衆国における連邦移民政策 の形成過程と契約労働者	3,000,000円
25	東京都	早稲田大学教育・総合科学学術院 教授 堀越 宏一 (ほりこし こういち)	15・16世紀フランスの木造町家建築に 関する建築史的調査・研究とその保 存・活用をめぐる政策の分析	1,000,000円
26	東京都	早稲田大学文学学術院 教授 三浦 清美 (みうら きよはる)	ロシア精神の源流としての北ロシア文 化の領域横断的研究ー文献学、歴史 学、宗教学、民俗学の統合の試み	2,200,000円

番号	所在地	名 称	使 途	金 額
27	富山県	富山大学学術研究部 教授 三船 温尚 (みふね はるひさ)	江戸大仏の銘文と3Dスキャン調査による近世大型鋳銅仏の生産体制と技法の研究	3,500,000円
28	京都府	龍谷大学世界仏教文化研究センター 客員研究員 宮治 昭 (みやじ あきら)	ガンダーラ美術の図像データベースの構築と大乘仏教美術の生成に関する研究	1,950,000円
29	東京都	早稲田大学商学学術院 教授 宮島 英昭 (みやじま ひであき)	多様化するアクティビズムをいかに理解するか：株主提案・エンゲージメント・退出の実証分析	3,500,000円
30	宮城県	東北大学大学院文学研究科 准教授 茂木 謙之介 (もてぎ けんのすけ)	戦後社会を中心とした皇室・皇族イメージの研究	1,600,000円
31	京都府	京都府立大学文学部 教授 母利 司朗 (もり しろう)	江戸時代の古典籍に描かれた和食文化の研究	2,400,000円
32	東京都	一橋大学大学院経済学研究科 准教授 森 宜人 (もり たかひと)	余暇をめぐる都市ガバナンスの比較史－歓喜力行団と厚生運動を中心に－	900,000円
33	沖縄県	琉球大学大学院法務研究科 教授 矢野 恵美 (やの えみ)	ジェンダーの視点から見た「犯罪者を親にもつ子ども」への支援と法	4,000,000円
34	東京都	早稲田大学文学学術院 教授 山本 聡美 (やまもと さとみ)	中世日本の環境と美術	2,200,000円
35	東京都	公益財団法人東洋文庫研究部 研究員 吉水 清孝 (よしみず きよたか)	インド古代～中世初期におけるバラモンと王との関係の研究：灌頂を受ける資格としての王の出自について	1,000,000円
36	東京都	東京大学先端科学技術研究センター 日本学術振興会特別研究員PD 渡部 沙織 (わたなべ さおり)	難病の公費医療制度と難病病床の研究	2,200,000円
合 計				80,000,000円

第50回（2021年度）三菱財団人文科学研究助成先一覧

【大型連携研究助成】

該当なし

【一般助成】

番号	所在地	名 称	使 途	金 額
1	東京都	慶應義塾大学経済学部 教授 赤林 英夫（あかばやし ひでお）	新型コロナ危機は子どもの学習・学力・教員の働き方をどう変えたか：ICTと地域の役割に注目した実証研究	2,600,000円
2	愛知県	名城大学大学院都市情報学研究科 教授 稲葉 千晴（いなば ちはる）	杉原千畝「命のヴィザ」の再評価：リトアニアのユダヤ難民と米ユダヤ機関の支援	1,700,000円
3	東京都	昭和女子大学人間文化学部 非常勤講師 遠藤 由紀子（えんどう ゆきこ）	会津藩家老山川家の明治期以降の足跡に関する研究	1,600,000円
4	京都府	立命館大学衣笠総合研究機構 専門研究員 大橋 弘明（おおはし ひろあき）	メルボルン都市圏における郊外開発に伴う空間変容と持続可能な都市圏形成のための政策・計画に関する研究	1,650,000円
5	大阪府	大阪市立大学大学院文学研究科 准教授 奥野 久美子（おくの くみこ）	講談資料コレクションの調査研究とデジタル整備－講談師・初代悟道軒圓玉日記の翻刻校注を出発点として－	3,000,000円
6	東京都	早稲田大学文学学術院 教授 柿沼 陽平（かきぬま ようへい）	中国古代家計経済の数量史的研究	2,200,000円
7	長崎県	鎮西学院大学現代社会学部 教授 加藤 久雄（かとう ひさお）	五島列島における潜伏キリシタン墓の新研究方法の確立	950,000円
8	東京都	立教大学経済学部 助教 菊池 美幸（きくち みゆき）	炭鉱からみた日本の近代化－健康をめぐる企業と行政の役割－	1,500,000円
9	京都府	京都薬科大学一般教育分野 講師 岸野 亮示（きのの りょうじ）	空海の遺志を継ぐ学僧たち：江戸時代の「根本説一切有部律」研究	1,850,000円
10	鹿児島県	天城町教育委員会社会教育課 学芸員 具志堅 亮（ぐしけん りょう）	ウンブキ水中鍾乳洞遺跡における先史遺物散布プロセスの考古学調査	2,550,000円
11	大阪府	桃山学院大学法学部 教授 小島 和貴（こじま かずたか）	長与専斎と内務省の衛生行政－大日本私立衛生会の活動を手がかりとして	1,300,000円
12	沖縄県	琉球大学国際地域創造学部 教授 後藤 雅彦（ごとう まさひこ）	先史東アジア交流史と琉球・台湾の文化的距離の再検証	3,300,000円

番号	所在地	名 称	使 途	金 額
13	京都府	京都大学高等研究院 特定助教 澤井 努 (さわい つとむ)	ヒト脳オルガノイド研究に伴う倫理的課題の研究	1,500,000円
14	石川県	北陸先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科 教授 敷田 麻実 (しきだ あさみ)	感染症収束後の移動前提社会の変容と新たな移動スタイルの研究	2,650,000円
15	群馬県	群馬大学情報学部 教授 柴田 博仁 (しばた ひろひと)	デジタル教科書が児童の学習効果・学習態度に与える影響の調査	1,200,000円
16	東京都	和光大学現代人間学部 教授 末木 新 (すえき はじめ)	自殺予防のためのオンライン危機介入の効果の検討ーメール相談事例を対象にー	1,900,000円
17	東京都	早稲田大学国際学術院 教授 大門 毅 (だいもん たけし)	メコン河流域内「越境移民」の空間的相関と域内セーフティネット構想の研究：地理情報システム(GIS)の活用	2,600,000円
18	千葉県	千葉大学大学院園芸学研究院 准教授 竹内 智子 (たけうち ともこ)	都市の発展に伴う旧芝離宮恩賜庭園の視点場の変化に関する研究	1,150,000円
19	神奈川県	慶應義塾大学総合政策学部 准教授 鄭 浩瀾 (てい こうらん)	毛沢東時代の中国における革命と「親密圏」ー民間史料と口述史が語る恋愛、婚姻と子育て	4,750,000円
20	東京都	東京大学東京カレッジ ポストドクトラル・フェロー Telegina Maria (てれぎな まりあ)	日本語連想ネットワークと言語学習アプリケーションー日本語版スモール・ワールド・オブ・ワードSWQW-JPー	1,300,000円
21	福岡県	西南学院大学法学部 教授 奈須 祐治 (なす ゆうじ)	ヘイトスピーチの対抗利益としての尊厳概念の考察	550,000円
22	大阪府	大阪大学大学院文学研究科 准教授 伴瀬 明美 (ばんせ あけみ)	東北アジア非漢族諸王室儀礼における礼的〈逸脱〉の基礎的研究	3,700,000円
23	奈良県	奈良女子大学研究院人文科学系 教授 宮路 淳子 (みやじ あつこ)	弥生・古墳時代の動物飼養と人畜共通感染症の研究	1,800,000円
24	東京都	学習院大学法学部 准教授 三輪 洋文 (みわ ひろふみ)	政治的分極化がアジアにおける民主主義の後退に与える影響	2,050,000円
25	愛媛県	愛媛大学アジア古代産業考古学研究センター 教授 村上 恭通 (むらかみ やすゆき)	弥生時代の日韓交流最前線・対馬における生活拠点の基礎的研究	3,550,000円
26	京都府	京都大学大学院経済学研究科 教授 山田 憲 (やまだ けん)	市場支配力と賃金格差	3,250,000円

番号	所在地	名 称	使 途	金 額
27	東京都	早稲田大学文学学術院 教授 和田 琢磨 (わだ たくま)	織田本を中心とした西源院本系『太平記』本文の研究－南北朝・室町時代初期の『太平記』像の究明のために－	1,450,000円
28	神奈川県	慶應義塾大学環境情報学部 教授 渡辺 靖 (わたなべ やすし)	米国のオルトライトのグローバル展開に関する民族誌的考察	1,100,000円
合 計 28 件				58,700,000円 (注)

(注) 本年度は助成決定後のご辞退が1件1,300,000円ございました

第4回（2022年度） 三菱財団文化財保存修復事業助成応募要領

1. 助成の趣旨

我が国の先人の残した文化的所産である文化財は、現在及び未来の貴重な国民的財産であり、その保存・修復は我が国の社会・文化の進歩・発展に貢献することになります。本財団は、上記に鑑み、設立趣意書に掲げた「文化の向上に資する」ことを目的に、設立50周年記念特別助成事業として2019年度に文化財修復事業助成を立ち上げました。2021年度からは、自然科学研究助成、人文科学研究助成、社会福祉事業・研究助成に続く、本財団の新たな助成事業「文化財保存修復事業助成」として発展させたいと実施しています。

2. 助成の概要

① 助成の対象

- イ. 文化財保護法第二条第1項に規定される有形文化財のうち、建造物を除く文化財（絵画、彫刻、工芸品、書跡、典籍、古文書その他の有形の文化的所産で我が国にとって歴史上または芸術上価値の高いもの並びに考古資料及びその他の学術上価値の高い歴史資料、以下「美術工芸品」という）の保存、修復。
- ロ. 日本国内に所在する、屋内展示可能なものに限りします。
- ハ. 保存、修復に伴う社会的意義の高いものを対象とします。
- ニ. 国宝・重要文化財（国指定）の保存、修復は対象外とします。

② 応募資格

- イ. 保存、修復を必要とする上記美術工芸品の所有者（事情により管理責任者による申請も認めることがあります）。所有権を証明できる資料が必要な場合は提出して頂くことがあります。
- ロ. 営利企業等及びその関係者は対象外とします。
- ハ. 営利目的あるいは私的鑑賞を目的に文化財を所有または管理する法人及び個人も対象外とします。
- ニ. 申請者は、本財団の同一年度の助成に複数応募することは出来ません。
なお、複数応募が判明した場合は、失格となる場合があります。

③ 助成金額

総額約2,500万円を予定。応募額は500万円以内とし、採択予定件数は12件程度を目途とします。なお、助成対象物の性質上、比較的少額で足りるものも充分考慮されます。

④ 助成金使途

- イ. 助成対象物の保存、修復事業に直接必要となる費用。
- ロ. 応募者が所属する組織等の間接経費・一般管理費等は助成の対象になりません。

⑤ 助成期間

助成を決定した年の10月から1年間を原則としますが、事情により開始月の変更及び複数年にわたる使用も認められることがあります(開始月は2023年4月までの変更が認められます。なお、複数年分助成申込を一括査定し、助成金は各年に分けて使用されることとなります)。

3. 応募期間

2021年12月15日(水)～2022年1月12日(水)午後5時

*期間内に必着のこと

*応募書類を三菱財団事務局へ直接お持込みになることはご遠慮下さい。

4. 応募方法

① 「助成申込書」の作成

応募にあたっては、本財団ホームページ上で作成した「助成申込書」を印刷し、申込者印もしくは代表者印(公印、法人・団体の場合)を押印の上、別途下記②で作成する「助成申込内容」と共に申込書一式として送付して下さい。

[ホームページアドレス]

<https://www.mitsubishi-zaidan.jp>

本財団ホームページ上で「助成申込書」を作成しただけでは助成の申し込みにはなりませんので、ご注意下さい。

応募には下記②「助成申込内容」の作成及び「助成申込書」「助成申込内容」双方の送付が必須となります。また、「ご応募に関するよくある質問と回答」を本財団ホームページ上の「応募Q&A」に掲載していますので、ご参照下さい。

<「助成申込書」作成の手順>

- i) 本財団ホームページ上の「助成について」より「文化財保存修復事業助成」を選択し「文化財保存修復事業助成申込書、助成申込内容(マイページ取得)」をクリックします。
- ii) Step1にある「マイページを取得する」ボタンをクリックすると、メールアドレスの登録画面が表示されますので、応募される方のメールアドレスを入力するとともに、助成金種類欄から「文化財保存修復事業助成」を選び、登録します。
- iii) 登録されたメールアドレスにマイページ登録用のURLがメールで届きますので、そのURLにアクセスします。
- iv) パスワード設定画面が表示されますのでパスワードを入力、併せてパスワードを忘れた場合の秘密の質問・回答を登録します。
- v) ログインIDが自動発行され画面に表示されると共にメールにも届きますので、発行されたIDとパスワードを使い、マイページにログインします。
- vi) 基本情報の「編集」ボタンをクリックし、入力画面に進みます。
「申込者」「申込内容」「修復業者」「連絡責任者」の各項目を入力し、確認画面で入力内

容のエラーチェックをした後、保存します。なお、修復業者の方が連絡責任者となることはできません。

- vii) 入力内容が確定したら「基本情報 WEB 入力完了」ボタンを押します。

(注)「基本情報 WEB 入力完了」ボタンを押すと、入力内容の変更はできなくなりますのでご注意ください。

- viii) 「助成申込書」(PDF)を表示・印刷し、申込者印を押印の上、下記②で作成する「助成申込内容」に表紙として付け、申込書一式正本(5. ④ ロ.)として下さい。

(注) 出力した「助成申込書」(PDF)には、変更を加えないで下さい。内容の変更が必要な場合は、本要領 6 ページ記載の本財団事務局までご連絡下さい。

WEB 操作に関するお問い合わせは、原則メールで、ヨシダ印刷株式会社 三菱財団サポート担当までお願いします。その際、マイページを取得されている場合は、ログイン ID を記載して下さい。

E-mail mitsubishi-zaidan@yoshida-p.co.jp

Tel. (03) 3626-1307 (平日 午前 9 時～午後 5 時)

② 「助成申込内容」の作成

- イ. 「助成申込内容」の書式は、本財団ホームページ上にて、“助成応募要領”と共に、12 月上旬以降、2022 年度分を掲載致します。
- ロ. 本財団ホームページ上の「助成について」より「文化財保存修復事業助成」を選択し、「文化財保存修復事業助成申込書、助成申込内容(マイページ取得)」をクリックします。Step2. 「助成申込内容」の作成にて、Microsoft Word 書式で示してある「助成申込内容書式」をダウンロードの上、ご使用下さい。2022 年度以外の助成申込内容もしくは他の分野の助成申込内容を使用した申請は無効となりますので、ご注意ください。
- ハ. 文字数に制限がある項目以外に入力文字制限はありませんが、印刷時に表示されないことがあります。必ず印刷プレビューもしくは印刷物で確認して下さい。

<「助成申込内容」記入上のご留意点>

- i) 本助成金で実施予定の保存修復対象物の概要、保存修復事業について、保存修復事業の実施スケジュール、開示の方法、資金計画、社会的意義等を記入頂くとともに、保存修復対象物の画像を添付して頂きます。
- ii) 保存修復に係る費用について、修復業者の見積もりを添付して下さい。なお、業者の見積もりは応募時点では正式見積もりではなくても結構ですが、助成決定時には正式見積もりを提出頂きます。

③ 「推薦書」について

- イ. 本財団制定の「推薦書」を必ず添付して下さい。なお、推薦書の書式は 12 月上旬以降、「応募要領」「助成申込内容」とともに本財団ホームページ上に掲載します。
- ロ. 推薦者については、その美術工芸品の保存、修復事業にあたっての専門家の方(修理指導のできる方)に推薦を頂いて下さい。なお、修復業者及び申込者の関係者の方は推薦者になれません。

④ 申込書一式の提出と受付の確認

- イ. 申込書一式（「助成申込書」「助成申込内容」「推薦書」「業者の見積もり」及び付属資料）の提出は送付によります。なお、FAX あるいはホームページ上での受付、E-mail での申込受付は致しません。
- ロ. 申込書一式の送付（*印のものは必ず送付願います）
- ・ * 申込書一式正本（「助成申込書」「助成申込内容」「推薦書」「業者の見積もり」及び付属資料） 1 部
 - ・ * 申込書一式副本（上記申込書一式正本のコピー） 4 部
- 正本、副本ともに片面印刷（コピー）として下さい。また、「助成申込書」及び「助成申込内容」はセットのうえ、正本・副本共にそれぞれ左肩上でホチキスどめして下さい。
- ・ * 法人・団体申込の場合は定款、役員名簿、資産負債の状況、活動状況がわかる案内書等を正本・副本全てに添付して下さい。
- ハ. 応募申込には、本財団ホームページ上で作成した「助成申込書」及び「助成申込内容」に加え、「推薦書」及び「業者の見積もり」の送付が必須となりますのでご注意ください。
- ニ. 本財団で申込書一式を受理しましたら、「助成申込書」に記載された連絡責任者にメールでご通知致します。応募期間の最終日以降 1 週間を過ぎても受理メールが届かない場合は、本財団事務局までご連絡下さい。
- ホ. なお、WEB 入力完了後に「助成申込書」に登録された基本情報の変更を希望される場合は、本財団事務局までご連絡下さい。
- ヘ. ご提出頂いた申込書一式、添付資料等は返却いたしかねますので、あらかじめご了承下さい。

5. 選考方法・結果通知等

① 選考方法

- イ. 財団委嘱の下記委員からなる選考委員会において慎重審議の上、その答申案に基づき、2022 年 6 月開催予定の財団理事会において正式決定されます。なお、審査の進捗状況についてのお問い合わせには回答致しかねますので、ご了承下さい。

（選考委員）

小松 大秀（委員長） 岩佐 光晴 林 温

（敬称略）

- ロ. 選考においては、その保存・修復により価値の維持・向上が見込まれるかを主たる採択基準とし、文化財としての重要度、保存・修復の緊急度、保存・修復計画の妥当性、助成の必要性、社会的意義等を勘案します。

社会的意義の具体的事例としては、

- ・ 地方文化の発掘・維持・発展、地方活性化等「地方創生」への貢献
- ・ わが国文化を海外に発信することによる「国際交流」進展への貢献
- ・ 歴史学、社会学、宗教学を始めとする「学術振興」上の貢献
- ・ 文化財の保存、修復に係る「技術の維持・伝承や人材の育成」への貢献

等が挙げられます。

② 選考協力等

所定の申込書、推薦書の提出に加え、更に詳しい書類等の提出、助成対象物の確認、所有者（管理責任者）、推薦者への面接・ヒアリング等をさせて頂くことがありますのでご協力下さい。

③ 結果通知等

- イ. 結果は決定後すみやかに申込者各位宛に書面またはメールで通知されます。なお「助成先一覧」は、本財団インターネットホームページ（以下、本財団ホームページ）上に掲載するほか各種学術関係広報資料（新聞、学会ニュース等）にも掲載を依頼致します。
- ロ. 採否の理由についてのご照会には一切回答致しかねますので、ご了承下さい。

④ 助成決定時の義務・条件

- イ. 選考の結果、助成対象者となられた場合は、財団所定の「助成承諾書」を別途提出頂き、これにより保存、修復事業の経過・完了の報告、収支会計報告、その他使途変更事前相談手続等の義務を負って頂く事になります。また、修復業者の修理報告書の写しを提出して頂きます。
- ロ. 保存、修復事業の修理体制の中に修理指導を行える専門の者を必ず置いて下さい。
- ハ. 本助成による保存、修復事業に伴う結果について当財団は一切責任を負いません。
- ニ. 保存、修復された美術工芸品については、文化財保護法第4条第2項の趣旨に則り、これを保存、公開する等、その文化的な活用を前提にして頂きます。保存、修復した対象物については転売を禁止します。
- ホ. 同美術工芸品の保存、修復事業が本財団の助成による保存、修復であることを公開時に明記して頂きます。
- ヘ. 保存、修復事業の経過・完了の当財団宛の報告については、当財団が公表することに同意をお願いします。
- ト. 助成金贈呈式を2022年9月12日（月）に予定しています。贈呈式には助成金受領者ご本人にご出席頂きます。やむを得ぬ場合は代理出席を認めるケースもあります。

6. 個人情報取扱いについて

- ① 個人情報は利用目的の範囲内で、かつ業務遂行上必要な限度内で利用致します。
- ② 法令等の定める場合を除き、事前に本人の同意を得ることなく個人情報を第三者に提供致しません。
- ③ なお、応募頂くにあたっては、WEBシステムに入力頂いた情報について、本財団のWEBシステムを運営するシステム会社が取扱うことにご同意頂いたものとします。

7. 反社会的勢力からの応募について

反社会的勢力および反社会的勢力と関係すると認められる個人もしくはグループからの応募は受け付けられません。

8. 申込書類提出先・お問い合わせ先

公益財団法人 三 菱 財 団 事務局

〒100-0005 東京都千代田区丸の内2丁目3番1号（三菱商事ビル21階）

Tel. (03) 3214-5754

Fax. (03) 3215-7168

E-mail. info@mitsubishi-zaidan.jp

追記 参考資料として、本財団過去3回の助成先一覧を添付します。

応募件数と同金額は以下の通りです。

2019年度 46件 119百万円

2020年度 21件 51百万円

2021年度 38件 101百万円

以 上

2021年11月

公益財団法人 三 菱 財 団

第48回（2019年度）三菱財団人文科学研究助成
第1回（2019年度）三菱財団文化財修復事業助成先一覧
＜50周年記念特別助成＞

番号	所在地	名 称	使 途	金 額
1	群馬県	群馬県立土屋文明記念文学館 館長 小笠原 祐治（おがさわら ゆうじ）	伝世尊寺定成筆『新古今和歌集』写本 及び伝世尊寺経朝筆『新古今和歌集』 古筆切修理	2,440,000円
2	滋賀県	浄厳院 住職（代表役員） 勝山 俊和（かつやま しゅんわ）	絹本着色 阿弥陀如来 来迎図（滋賀・ 浄厳院 蔵）の保存修復	2,000,000円
3	東京都	学習院大学史料館 館長 水野 謙（みずの けん）	勸修寺所蔵学習院大学史料館管理「麒麟 住吉図末廣（仙洞御所由来）」修復 事業	1,400,000円
4	埼玉県	法養寺薬師堂奉賛会 会長 辻 敏（つじ さとし）	法養寺薬師堂木造十二神将立像、木造 日光菩薩・月光菩薩立像保存修理事業	4,300,000円
5	東京都	共立女子大学博物館 館長 長崎 巖（ながさき いわお）	蒔絵化粧道具（違鷹羽紋散松橋蒔絵調 度）のうち手拭掛の保存修復	1,490,000円
6	福島県	小野赤沼行政区 区長 西牧 正明（にしまき まさあき）	福島県指定重要文化財 木造阿弥陀如 来及び両脇侍像 修復事業	3,150,000円
7	京都府	宗教法人 光明寺 代表役員 榎林 誠雄（ばいりん せいゆう）	光明寺奉加帳修理事業	1,440,000円
8	北海道	枝幸町 枝幸町長 村上 守継（むらかみ もりつぐ）	目梨泊遺跡金銅装直刀修復事業	1,540,000円
9	兵庫県	公益財団法人 香雪美術館 理事長 広瀬 道貞（ひろせ みちさだ）	香雪美術館所蔵「帰来迎図」の修理事 業	2,240,000円
合 計				9 件 20,000,000円

第49回（2020年度）三菱財団人文科学研究助成
第2回（2020年度）三菱財団文化財修復事業助成先一覧
＜50周年記念特別助成＞

番号	所在地	名 称	使 途	金 額
1	沖縄県	八重瀬町 町長 新垣 安弘（あらかき やすひろ）	字具志頭の龕及び付属葬具修復事業	3,030,000円
2	愛知県	公益財団法人徳川黎明会徳川美術館 館長 徳川 義崇（とくがわ よしたか）	白・納戸細格子と茶・花色・黄・赤・ 白横縞腰替熨斗目保存修復事業	2,810,000円
3	石川県	白山市尾添区 区長 林 與枝男（はやし よしお）	尾添白山社白山下山仏阿弥陀如来立像 修復事業	1,740,000円
4	北海道	恵庭市 市長 原田 裕（はらだ ゆたか）	西島松5遺跡出土土刀修復事業	3,140,000円
5	長崎県	特定非営利活動法人世界遺産長崎 チャーチトラスト 理事長 宮脇 雅俊（みやわき まさとし）	大浦天主堂収蔵「ド・ロ版画及び版 木」研究調査・保存修復事業	1,970,000円
6	山形県	愛宕山常福院 住職 山口 知津子（やまぐち ちづこ）	常福院不動明王立像外二軀修復事業	3,640,000円
7	愛知県	野田八幡宮 神社総代 山本 秀明（やまもと ひであき）	鉄錆地塗紺糸絨塗込仏胴具足・尉頭形 兜保存修復事業	1,310,000円
8	京都府	宗教法人養源院 住職 吉水 一成（よしみず かずしげ）	紙本著色豊臣秀頼像修理事業	2,360,000円
合 計				8 件 20,000,000円

第3回（2021年度）三菱財団文化財保存修復事業助成先一覧

番号	所在地	名 称	使 途	金 額
1	京都府	大覚寺 代表役員 伊勢 俊雄 (いせ しゅんゆう)	絹本著色 弘法大師像 1 幅 保存修理	2,500,000円
2	東京都	町田市立博物館 館長 伊藤 嘉章 (いとう よしあき)	町田市立博物館所蔵ベトナム陶磁修復事業	1,020,000円
3	京都府	宗教法人普済寺 代表役員 岡本 清教 (おかもと せいきょう)	普済寺木造伝千種姫坐像保存修理事業	1,910,000円
4	大阪府	公益財団法人正木美術館 理事長 加納 武 (かのう たけし)	公益財団法人正木美術館所蔵「一休宗純と森女図」の修復事業	2,500,000円
5	京都府	大谷大学博物館 館長 國賀 由美子 (くにが ゆみこ)	三国祖師影修理事業	2,350,000円
6	愛媛県	大乘寺 代表役員 河野 宗般 (こうの そうはん)	大乘寺木造不動明王立像保存修復事業	1,550,000円
7	東京都	公益財団法人五島美術館 理事長 越村 敏昭 (こしむら としあき)	「本阿弥切 伝小野道風筆」修理事業	2,500,000円
8	岐阜県	宗教法人明圓寺 代表役員 廣瀬 真覚 (ひろせ まさと)	絹本着色聖徳太子六臣像保存修理事業	2,140,000円
9	佐賀県	医王山光浄寺 住職 代表役員 福山 正峰 (ふくやま まさたか)	光浄寺薬師三尊及び諸尊像修復事業	3,850,000円
10	和歌山県	宗教法人護国院 代表役員 前田 泰道 (まえだ たいどう)	絹本著色地藏菩薩立像修理事業	2,500,000円
11	熊本県	熊本大学附属図書館 附属図書館長 田中 朋弘 (たなか ともひろ)	熊本大学所蔵「熊本藩関係貴重資料群」の修復事業	2,180,000円
合 計				11 件 25,000,000円

2022年度 学術研究奨励金応募要項【人文科学部門】

公益財団法人 三島海雲記念財団

自然科学と人文科学の学術研究において、将来の発展が期待できる優れた研究を支援することを目的としています。

1. 対象分野

人文科学部門 : アジア地域を対象とし、史学・哲学・文学を中心とする人文社会科学分野における学術研究(但し、日本を中心とする研究は除く)

2. 助成の種類と内容

1) 助成の種類

学術研究奨励金は「個人研究奨励金」と「共同研究奨励金」の2種類に分類します。

(A) 個人研究奨励金

個人研究を対象とし、応募する研究者個人に対する助成金ですが、共同研究者のあることを妨げません。

(B) 共同研究奨励金

複数の研究機関又は異なる部局の研究者が、共通の課題について、共同して行う研究を対象とし、共同研究グループに対する助成金です。

※ 「個人研究奨励金」と「共同研究奨励金」の申請書は様式が異なりますので御留意ください。

2) 助成金額及び採択件数

(A) 個人研究奨励金

1件100万円 両部門合計 70件程度(総額 7,000万円程度)

(女性研究者と大学院博士課程後期院生で採択件数の30%以上を目標とします。)

(B) 共同研究奨励金

1件200万円～500万円 両部門計 4～5件程度(総額 2,000万円程度)

3) 助成期間

原則として1年間(2022年7月～2023年6月)

3. 応募資格

(A) 個人研究奨励金

①日本在住の研究者(国籍は問いません)、及び海外在住の日本人研究者

②上記①には、大学院博士課程<後期>在籍者(及びそれに相当する大学院生)を含みます。

③年齢制限は有りませんが、若手研究者及び女性研究者の積極的応募を期待します。

(B) 共同研究奨励金

①共同研究の代表研究者とします。

代表研究者は、複数の研究機関又は異なる部局の研究者が、共通の課題について、共同して行う研究組織を代表し、計画の推進、取りまとめ等に責任をもって遂行できるものとします。

②代表研究者は国内の大学、研究機関に所属することとします。共同研究者は国籍、所属研究機関の所在地(海外も可)を問いません。

③共同研究者の1名は、代表研究者と異なる外部研究機関あるいは部局に所属していることを必要とします。

④また、原則、分担研究費が100 万円以上の共同研究者が一人以上加わることを必要とします。

4. 応募資格に関する留意点

①当財団の「個人研究奨励金」と「共同研究奨励金」の両方に申請することは出来ません。

②過去3年以内に当財団から学術賞、奨励金を受贈された方の応募は出来ません。

③当財団助成期間中に、同一又は類似申請研究課題で、他の民間助成財団の助成が決定している方は応募できません。

④公的助成(科研費等)に係る大型研究プロジェクト(総額2,000万円以上)の受領が決定(内定含む)した代表者はご遠慮ください。なお、本助成金を受けられることが内定した後に、上記の公的助成を受けることが決まった場合は、その旨ご連絡いただき受領を遠慮いただきます。

⑤民間企業に所属している方や助成期間中に就職を予定される方は応募できません。また、共同研究者に民間企業に所属している方が含まれている場合も応募は出来ません。

5. 推薦者

1) 所属機関の部局長(所属長)、または、これに準ずる方の推薦を必要とします。

①大学：学部長、大学院研究科長又は研究所長(単科大学の場合は学長)

②公立研究所及びその他公的研究機関の長

③大学院生の場合は指導教官も可とします。

2) 「個人研究奨励金」の推薦件数は複数を可とします。

「共同研究奨励金」の推薦件数は一推薦者につき1件とします。

6. 助成の対象となる費用

1) 研究に直接必要な経費とします。

2) なお、研究機関又は研究室全体の間接経費・一般管理費(オーバーヘッド)は原則として対象外とします。

3) 他の研究機関・組織に転任する場合は、本人に対する研究助成金として新たな研究機関・組織に移し換えを行うこととします。

7. 助成の対象とならない研究

- ①営利目的、又は営利につながる可能性の大きい研究
- ②他の機関からの委託研究
- ③実質的に完了している研究

8. 応募方法

当財団ホームページ (<https://www.mishima-kaiun.or.jp>) のWebシステム(研究助成申請システム)で応募してください。Webシステムは2022年1月11日よりアクセス可能になります。なお、応募方法の詳細はホームページの「応募手順」をご確認ください。

9. 応募受付期間

2022年1月11日～2月28日 17時

10. 選考方法

当財団の学術委員からなる選考委員会の選考を経て理事会で決定します。

11. 選考基準

以下の諸点に重点を置き選考します。

(A) 個人研究奨励金

- ①学術的・社会的要請が大きい研究
- ②独創性に優れ、他の研究の端緒となる可能性のある研究
- ③研究計画が十分に検討されていて目的達成の可能性が高い研究
- ④国・企業等の補助、助成が得難く当財団事業目的に沿った研究
- ⑤若い研究者の萌芽的研究

(B) 共同研究奨励金

上記、①～⑤に加え、

- ⑥複数の研究機関、異なる部局の研究者による共同研究
- ⑦助成金は共同研究者と適切に配分されていること。

12. 選考結果通知

採否の結果は、2022年6月中旬までに書面にて申請者宛に通知します。また、本財団ホームページ等で公表します。

なお、採否の理由についてのご質問にはお応えいたしかねますのでご了承ください。

13. 助成金の贈呈

2022年7月上旬までに指定銀行口座(銀行振込)に一括交付します。(['共同研究奨励金'の共同研究者分担金も同様とします。) なお、7月上旬に贈呈式を予定しております。

14. 奨励金に対する税法上の特典

本財団助成金は、昭和44年10月17日付大蔵省公示第96号により所得税免税の特典があります。

15. 研究成果等の報告

- 1) 助成期間満了後の2023年7月20日までに、研究報告(「研究報告書」並びに「研究成果概要」)及び収支報告書を提出して頂きます。
- 2) 提出いただく研究報告書は、編集してデジタルにて当財団に保管します。研究成果概要は、刊行する「年次報告書」及び当財団ホームページに掲載します。また、研究報告書および研究概要は前記の他に、科学技術振興機構、国会図書館等に提出します。
- 3) 助成金による研究の成果を発表(論文、口頭)する場合には、当財団の助成を受けたことを明示して頂きます。
- 4) 「共同研究」は、研究期間満了年の秋に開催する報告交流会に参加し報告いただきます。
- 5) 助成期間中に産休育休を取得するものについては、助成期間の延長が可能です。また、研究の事情により延長が認められることがあります。

16. その他

- 1) 個人情報の取り扱いについて
 - ①申請書にご記入頂いた個人情報は、当財団「個人情報保護方針」にもとづき、その利用範囲内で適切に取り扱わせていただきます。
 - ②法令等で定める場合を除き、個人情報を第三者に提供する場合は、事前に本人の同意を得て行います。
- 2) 必要に応じて財団ホームページ「学術研究奨励金(研究助成):よくあるご質問」を参照ください。

17. お問い合わせ先

公益財団法人三島海雲記念財団

〒150-0012

東京都渋谷区広尾1-6-10 ジラッフアビル

TEL: 03-5422-9898

FAX: 03-5422-9733

E-mail mishimak15@mishima-kaiun.or.jp

以上

令和4年度 仁和伝法所 若手研究助成 募集要項

本制度は、若手研究者による優れた調査研究に対し、金銭による助成をおこなうものです。それを通じて、真言密教および仁和寺に関わる学術研究の進展、また仏教文化の興隆に寄与することを目的としています。

1. 助成の対象となる調査研究テーマについて

下記の4点をすべて満たすものとします。

- ① 応募者個人による調査研究であること。
- ② 真言密教の法流・教学・歴史、または仁和寺に関わる内容であること。
- ③ 仏教学、文学、歴史学（考古学、文献史学、美術史学を含む）、またはそれに関わる分野の調査研究手法を用いること。
- ④ 未発表、かつ本助成以外の助成事業に採択（併願を含む）されていない内容であること。

2. 応募資格

下記の2点をすべて満たすものとします。

- ① 昭和57年（西暦1982年）4月2日以降の生まれであること。
- ② 過去に本助成を受けていないこと。

※ 日本国籍、僧籍の有無は問いません。ただし、仁和伝法所所員および総本山仁和寺役職員は応募できません。

3. 助成の対象となる調査研究期間

令和4年4月1日～令和5年3月31日

4. 助成の概要

下記の2点をすべて満たすものとします。

- ① 1件あたり50万円以内であること（助成は総額150万円以内を予定）。
- ② 助成金の使途は、研究に直接関わる書籍、文書、備品、消耗品の購入費用、および調査や研究内容の発表に係る旅費交通費、論文の執筆投稿などに係る経費とする。ただし、パソコン、デジタルカメラなどの機材購入費、旅費については節度ある申請をすること。また、人件費、食糧費は認めない。

※ 応募は一人につき1件のみとします。また、審査の結果により申請金額に対して実際の助成金額が減額される場合があります。

5. 採択者の義務

下記の2点をすべて満たして下さい。

- ① 調査研究の成果を発表する場合は、本助成を受けたことを必ず明記し、また仁和伝法所に連絡すること。
- ② 令和5年3月31日までに「研究成果報告書」（論文形式、原稿用紙30枚以上）、「研究成果の概要」（原稿用紙3枚程度、仁和伝法所により公開予定）、助成金使途の領収証またはレシートを添えた「会計報告書」を作成し、仁和伝法所まで郵便にて提出すること。

※ 「研究成果報告書」などの書式や提出の方法については、採択通知の際にお知らせします。

6. 募集期間

令和3年12月13日～令和4年2月18日（締切日必着のこと）

7. 応募方法

下記の手順により応募をおこなってください。

- ①「申請書」を仁和伝法所ウェブサイトよりダウンロードして下さい。
 - ②「申請書」に必要事項を入力の上、Eメールにて仁和伝法所（denposho@ninnaji.jp）まで提出して下さい。
 - ③仁和伝法所にて「申請書」を受信後、2月24日までに返信をおこない、受付を完了した旨お知らせします。返信がない場合には、仁和伝法所までお問い合わせ下さい。
- ※「申請書」は必ず応募者本人が作成し、日本語にて入力して下さい。Microsoft Word、またはPDFファイル形式にて提出して下さい。手書き入力は認めません。

8. 募集結果の発表

助成の採否とその金額は、総本山仁和寺における審査を経て決定します。応募者には令和4年5月末日頃にEメールにて採否の通知をおこないます。採択者には期限内に必要な書類をご提出いただき、その上で6月末日頃に助成金を交付する予定です。

※ 審査の過程および結果についての質問には応じられません。

9. 特記事項

- ・本助成の申請に関して取得する個人情報は、審査やその結果の通知などに関する業務に限って取り扱います。
- ・採択を受けた調査研究について不正行為が発覚した場合、採択の中止、または支給した助成金の返還を求めることがあります。

10. 過去の採択テーマ（肩書は採択当時のもの）

- ・平安時代の仁和寺をめぐる氏族秩序の研究—宇多源氏を中心に—
上村正裕氏（京都芸術大学 業務担当非常勤講師）
- ・院政期仁和寺歌壇における和歌生成の研究
金子英和氏（国文学研究資料館 機関研究員）
- ・寺院文献調査に基づく近世真言密教における新安流の形成と展開に関する研究
柏原康人氏（大阪大谷大学 非常勤講師）
- ・室町期における仁和寺の展開に関する歴史学的研究—御室と真光院の動向を中心に—
高鳥廉氏（北海道大学大学院文学研究院 専門研究員）
- ・両部曼荼羅の図像解釈に関する基礎研究—日本における解釈史の変遷を中心に—
中村夏葉氏（愛知県立芸術大学 教育研究指導員）

11. 応募先

〒616-8092 京都府京都市右京区御室大内33

総本山仁和寺 仁和伝法所（担当：泰地 翔大）

TEL：075-461-1155 FAX：075-464-4070

Eメール：denposho@ninnaji.jp

ウェブサイトURL：https://www.denposho.com/



仁和伝法所

Esoteric Buddhism Research Centre, Ninnaji Temple

〒616-8092 京都府京都市右京区御室大内 33

TEL：(075)461-1155 (代)

FAX：(075)464-4070 (代)

MAIL：denposho@ninnaji.jp

WEB：https://www.denposho.com

Twitter：@ninna_denposho



令和3年11月吉日

大阪大学

総長 西尾章治郎 様

特定非営利活動法人

中村元記念館東洋思想文化研究所

理事長 清水谷 善圭

第7回中村元東洋思想文化賞論文推薦の御願い

拝啓 貴学におかれましては、時下益々ご盛栄のこととお慶び申し上げます。

当法人は、東洋思想研究の世界的権威として松江名誉市民を贈られました故中村元博士の顕彰を目的として、平成24年10月に中村元記念館を開館いたしました。

今年度、次世代を担う大学生・大学院生に対する助成を目的として、卒業論文、修士論文を対象とした第7回中村元東洋思想文化賞を実施する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により多くの大学・大学院において研究活動に支障が出ている現状により応募点数が例年よりも著しく少なく、この点を考慮し、不特定多数の公平を期すべく来年度へ延期をいたしました。そして、今年度の応募論文と来年度の応募論文を合わせて審査することとし、改めて募集をする運びとなりました。

つきましては、ご賢察の上、是非ともご推薦を賜りますようご依頼申し上げます。また、別添の推薦用書類一式も併せてご高覧頂ければ幸甚に存じます。

末筆ではございますが、貴学の益々のご隆盛をお祈り申し上げますとともに、書中をもってお願い申し上げます。

敬具

特定非営利活動法人 中村元記念館東洋思想文化研究所

(担当：加藤)

〒690-1404 島根県松江市八束町波入 2060

TEL: 0852-76-9593 Fax: 0852-76-9693

info@nakamura-hajime-memorialhall.or.jp

【第7回 中村元東洋思想文化賞 応募要項】

1、受付期間

2022年3月1日（火）～2022年3月20日（日） 必着

2、応募書類

下記（１）～（４）を送付してください。なお応募いただいた書類一式は返却いたしません。また書類等不備の場合は、審査対象外となりますのでご注意ください。

- （１）推薦書 ※１
- （２）審査用論文の写し１部
- （３）論文要旨（氏名題目を含み日本語で2,000字程度）
- （４）上記（１）～（３）の電子化ファイル（PDF形式）※２

※１ 記念館 web サイト (<http://www.nakamura-hajime-memorialhall.or.jp/ronbun.html>)

より入手してください。取得した個人情報、本事業にかかわる事務以外には使用しません。

※２ ファイル転送サービスをご利用いただくか、下記メールアドレス宛に送信してください。

3、選考結果の通知

2022年8月頃に受賞者本人に直接通知いたします。

発表日(2022年10月11日付)で所属大学の長、推薦者に結果を郵送いたします。

4、授賞式

2022年10月29日（土）に中村元記念館（松江市）で行う予定です。

※会場までの交通費・宿泊費等は受賞者のご負担となります。

5、書類等の送付先・お問合せ先

〒690-1404 島根県松江市八束町波入 2060 番地 松江市役所八束支所 2 階

中村元記念館東洋思想文化研究所「文化賞応募」係 宛

e-mail : info@nakamura-hajime-memorialhall.or.jp

電話 : 0852-76-9593 Fax : 0852-76-9693

【第7回中村元東洋思想文化賞 概要】

1、趣旨

中村元博士の開拓された東洋思想研究を志す大学生・大学院生のすぐれた論文を広く顕彰し、今後の研究を奨励することを目的とする。

2、対象分野

インド哲学・仏教学、中国思想などの東洋思想、または比較思想にかかわる分野。

3、募集

全国の国公立大学および私立大学（約100校）。

4、推薦

①2020年度、2021年度に提出された日本語による卒業論文または修士論文であること。

②推薦期間：2022年3月1日(火)から2022年3月20日(日)必着。

③自薦の論文は審査対象外とする。

5、選考

中村元東洋思想文化賞選考委員会において受賞者を決定します。

一次審査：6月頃、最終選考：7月頃

＜選考委員＞

委員長 前田専學（東京大学名誉教授・中村元記念館東洋思想文化研究所所長）

委員 渡邊寶陽（立正大学名誉教授）

委員 小島 毅（東京大学大学院教授）

委員 吉田宏哲（大正大学名誉教授）

委員 蓑輪頭量（東京大学大学院教授）

委員 渡辺章悟（東洋大学教授）

委員 釈 悟震（東方学院講師・中村元記念館東洋思想文化研究所副所長）

6、発表

2022年10月11日(火)に、記念館webサイトにて受賞者の氏名、論題、提出先の大学名を公表します。なお、受賞論文に社会通念上不適切な行為が判明した場合、受賞を取り消す場合があります。

※受賞者には別途連絡いたします。

7、授賞等

原則として各賞1名とし、受賞者には賞状と副賞として奨励金を贈呈します。

- ・優秀賞 賞状および副賞（奨励金20万円、記念品）
- ・松江市長賞 賞状および副賞（奨励金10万円、記念品）
- ・奨励賞 賞状および副賞（奨励金10万円、記念品）※卒業論文対象。

授賞式は、**2022年10月29日（土）**に中村元記念館（松江市八束町波入2060 松江市役所八束支所2階）において行う予定です。

8、お問合せ先

〒690-1404 島根県松江市八束町波入2060 松江市役所八束支所2階

中村元記念館東洋思想文化研究所「文化賞応募」係宛

Tel：0852-76-9593 Fax：0852-76-9693

e-mail：info@nakamura-hajime-memorialhall.or.jp

9、協賛企業

※中村元東洋思想文化賞は以下の企業にご協賛いただいております。

山陰酸素工業株式会社（本社：鳥取県米子市）

堀田石油株式会社（本社：鳥取県境港市）

美保テクノス株式会社（本社：鳥取県米子市）

一般財団法人ごうぎん財団（所在地：島根県松江市）

【第7回 中村元東洋思想文化賞 実施日程】

内容	日程
推薦期間	2022年3月1日（火）～3月20日（日）必着
発表	2022年10月11日（火）
授賞式	2022年10月29日（土）

第7回中村元東洋思想文化賞 推薦書

応募論文	区 分	☐ 学部卒業論文 ☐ 大学院修士論文	
	論文題目		
論文執筆者	所属大学		
	学部・研究科等		
	学科・専攻等		
	ふりがな 氏 名		
	生年月日（西暦）	年	月 日生
	現住所	〒	
	電話番号		
	e-mail アドレス		
推薦者	推薦理由		
	指導教員	職 名	
		氏 名	印
	学部長または 研究科長	職 名	
		氏 名	印

歴博研第 177 号

令和 3 年 11 月 19 日

関 係 機 関 長 殿

大学共同利用機関法人人間文化研究機構

国立歴史民俗博物館長 西 谷 大

(公印省略)

令和 4 年度国立歴史民俗博物館共同利用型共同研究の公募について

このたび本館では、別添の要項により共同利用型共同研究の公募を行うことになりました。
つきましては、貴機関所属の研究者及び大学院生（博士後期課程）にご周知くださいますよう
よろしくお願い申し上げます。

なお、令和 3 年 11 月 22 日（月）より、下記本館ホームページにおいても公募について掲載し
ておりますので、ご覧いただけますと幸いです。

記

■国立歴史民俗博物館ホームページ（令和 4 年度共同利用型共同研究公募について）

https://www.rekihaku.ac.jp/research/list/joint/public_ad/index.html

以上

【本件連絡先】

国立歴史民俗博物館

研究協力課 研究教育係 共同研究公募担当

電話：043-486-6473（直通）

E-Mail：kenkyo@ml.rekihaku.ac.jp

令和4年度 国立歴史民俗博物館 共同利用型共同研究公募要項

1. 趣旨

共同利用型共同研究は、国立歴史民俗博物館が所蔵する資料や保有する機器・設備を用いて、館外の研究者が代表者となり、館内の専任教員とともに進める研究です。大学院生やポストドクターなどを含む若手研究者の応募を期待します。

2. 共同研究の趣旨と区分

本共同研究には、下記の二つの区分を設けます。希望する区分を明記のうえ応募してください。

- ①館蔵資料利用型…本館が所蔵する資料を対象とした、非破壊的手法（熟覧・記録・撮影）による調査・研究
- ②分析機器・設備利用型…本館が保有する分析機器や分析設備を用いた調査・研究

3. 対象となる資料および機器・設備

- ①館蔵資料利用型…「国立歴史民俗博物館館蔵資料データベース」

<https://www.rekihaku.ac.jp/doc/t-db-index.html>

から資料名を記入してください。

- ②分析機器・設備利用型… 別表の中から、機器・設備名を記入してください。

4. 共同研究の期間

令和4年4月以降に開始し、同年度内に終了することとします（最長12ヵ月）。

5. 応募資格

研究代表者の資格は、下記のいずれかに該当する者としてします。

- ・国内・海外の研究機関に所属する研究者（常勤・非常勤を問わない。また、ポストドクターを含む。）
- ・大学院博士後期課程の学生
- ・自治体の研究活動・業務に従事する常勤職員
- ・その他、上記の者に準じる研究の能力をもつ者

なお、②分析機器・設備利用型の応募者は、大学学部程度の化学関連科目を履修していることなど、一定の専門知識を有することが望ましい。

6. 研究組織

研究代表者と、利用する資料・機器・設備を担当する本館の専任教員1名で構成します。

7. 研究内容と成果報告

担当する専任教員との打合せや協議を行いながら、①②それぞれの趣旨に沿って研究を進め、当該年度末までに研究成果報告書を提出します。また、共同研究終了後、研究成果を、『国立歴史民俗博物館研究報告』（通常号）に投稿できます。

8. 研究経費

原則 30 万円以内とし、次の費目に支出することができます。

- ①館蔵資料利用型…旅費、消耗品費等
- ②分析機器・設備利用型…旅費、分析に用いる消耗品費、分析委託費等

9. 公募件数

7 件程度。ただし、本館の専任教員 1 名につき 1 件以内とします。

10. 申請方法

共同研究計画については、「令和 4 年度国立歴史民俗博物館共同研究計画書」（以下よりダウンロードしてください）を作成し、それぞれ所属長の承認を得て提出してください。

[計画書ダウンロード（本館 Web ページ URL）]

https://www.rekihaku.ac.jp/research/list/joint/public_ad/index.html#b

なお、応募にあたっては、利用する館蔵資料・機器・設備を担当する本館の専任教員と連絡をとり、館蔵資料の取り扱いや機器・設備の利用の段取り等、研究計画を立てる前に認識を共有しておいてください。担当教員については、「14. 問い合わせ先」にメールでご相談ください。

- ・研究代表者が研究機関・自治体等に所属している場合は、予め所属機関（の部局）の長の下で、必要に応じて、所属先の同意書（様式自由）を添付してください。
- ・研究代表者が大学院生である場合は、指導教員の推薦書（別紙様式）を添付してください。
- ・申請書類（共同研究計画書等）の電子データを「14. 問い合わせ先」のメールアドレス宛に添付してお送りください。（電子メールでご提出ください。）

11. 留意事項

- ・研究代表者が大学院生である場合は、「学生教育研究災害傷害保険」または同等の傷害保険に必ず加入してください。所属機関がない参加研究者についても、同等の傷害保険に加入していただく必要があります。
- ・本共同研究における知的財産等の取扱いに関する事項は、人間文化研究機構知的財産規則に定めるところによります。

12. 計画書等の提出期限

令和 4 年 1 月 11 日（火）（必着）

13. 選考及び選考結果の通知

共同研究計画書に基づき選考を行い、2 月末までに申請者に通知します。また、選考の結果、採択されなかった申請者の計画書等は返却いたしません。

14. 問い合わせ先

〒285-8502 千葉県佐倉市城内町 117 番地

国立歴史民俗博物館 管理部研究協力課研究教育係 共同研究公募担当者 宛

TEL：043-486-6473 FAX：043-486-6484

E-Mail：kenkyo@ml.rekihaku.ac.jp

令和4年度 国立歴史民俗博物館 共同利用型共同研究計画書（新規）

研究課題名		(日本語)			
		(英語)			
研究区分 ※どちらかにチェックを入れてください。		☐ 館蔵資料利用型 ☐ 分析機器・設備利用型			
研究対象資料名／ 研究で使用する 科学解析機器名					
研究組織		氏 名	所属機関・職名 [所属大学・研究科・専攻・学年]	若手研究者 35 歳以下◎ 39 歳以下○	専門分野
	研究申請者 (代表者)				
	館内担当教員				
研究内容	※研究の目的および特徴について、具体的に書いてください。				
	※参加する若手研究者の人数を集計しています 令和4年4月1日現在 35 歳以下の方は◎印、39 歳以下の方は○印を付してください				
研究計画	※研究の目的を達成するための具体的な研究計画・方法について、明確に書いてください。				

研究成果と公表方法

令和4年度の経費の内訳

① 旅費	月別	事項(場所)	日数	人数	金額(単位:円)	備考
		※資料調査、成果に基づく学会発表等				
小計						
② 消耗品 購入・ 分析 委託費	品名・事項		単価	数量	金額(単位:円)	備考
小計						
③ その他	事項		単価	数量	金額(単位:円)	備考
小計						
総計						

推 薦 書

令和 年 月 日

国立歴史民俗博物館長 殿

指導教員

所属・職

氏 名 _____ 印

貴博物館の共同利用型共同研究の代表者として下記の者を推薦いたします。

記

推薦する学生の氏名・所属大学・研究科・専攻・学年			
ふりがな		所属大学・研究科・ 専攻・学年	
氏名			
研究課題名			
推薦理由（業績を含む）			

【別表】

分析機器・設備名	規格		導入年度	主な用途	
ICP質量分析装置	パーキンエルマー	NexION2000	2020年度	・ 同位体比測定のために抽出した鉛、ストロンチウムなどの回収量分析 ・ 微量元素分析	
微小試料採取設備	マイクロサポート	AxisProSS	2015年度	・ 顔料、剥離漆の採取	
マルチコレクタICP質量分析計（MC-ICP-MS）	Thermo Fisher Scientific	NEPTUNE PLUS	2013年度	・ 鉛同位体比の測定（青銅製品などの産地推定等） ・ ストロンチウム同位体比の測定（人骨による生育地推定等）	
X線分析顕微鏡	HORIBA（堀場）	XGT-5200SL	2013年度	・ 元素分析（錦絵色材等） ・ 元素マッピング解析	
特性X線検出器付低真空電子顕微鏡（SEM-EDX）	JEOL（日本電子）	JSM-6010LA	2013年度	・ 極微小部の観察（種実同定、種実圧痕、金属製品等） ・ 微小部の元素分析	
色相・有機質分析システム	Megavision	EV multispectral imaging system	2013年度	・ 文化財のマルチバンド測定（13 bands）	
分光放射輝度計	コニカミノルタ	CS-2000A	2012年度	・ 文化財の可視光分光測色	
赤外線カメラシステム					
内 訳	InGaAsカメラ	浜松ホトニクス	C10633	2011年度	・ 木簡の文字判別 ・ 漆紙文書の文字判別
	カメラコントローラー	浜松ホトニクス	C2741-62	2011年度	
ハンドヘルド蛍光X線分析計	オリンパス・イノベックス	DP2000 DELTA Premium	2010年度	・ 大型資料、館外所在資料の極部元素分析	
高温用赤外線サーモグラフィー	JENOPTIK	VarioTHERM basic	2006年度	・ 炎の逐次温度測定（鍛冶技術の数値的分析） ・ 高温時の加工品の温度測定	
AMS- ¹⁴ C法支援機器					
内 訳	自動AAA処理装置	光信理化学製作所	K-RS-C	2006年度	・ 炭素14年代測定試料の調製 ・ 炭素・窒素安定同位体分析試料の調製 ・ 酸素安定同位体分析試料の調製 ・ 炭素・窒素濃度の測定
		光信理化学製作所	K-RI-C	2002年度	
	グラファイト精製装置	光信理化学製作所	K-R0-L	2006年度	
		光信理化学製作所	K-RS-EL	2005年度	
		光信理化学製作所	KS-MK-5	2000年度	
	元素分析計	Thermo	Flash EA 1112	2005年度	
高精細デジタル顕微鏡	キーエンス	VHX-500	2005年度	・ 微小部の観察（金属製品等）	

令和5年 月 日

国立歴史民俗博物館長 殿

氏名 _____ 印

令和4年度共同利用型共同研究成果報告書

ふりがな	
氏 名	
所属・職名又は 大学院・研究科・専攻	
共同研究員（本館教員） 職・氏名	国立歴史民俗博物館研究部 研究系
研 究 課 題	
使用した資料及び 機器・設備	
研 究 期 間	自 年 月 ～ 至 年 月
研 究 内 容	〔別紙〕 研究成果の要約（600～800字程度）を冒頭に書き、 研究の経過・内容・成果について、 A4判 2,000字～4,000字程度（図表等を含む）で作成 すること。 ※研究成果の要約は『年報』とHPで公開。

令和4年度

国立歴史民俗博物館では、
館蔵資料や保有する
分析機器・設備を用いて、
館内の教員（1名）と共に進める
共同利用型共同研究を募集します。
大学院生やポストドクターなどを含む、
若手研究者の応募を期待します。

共同利用型共同研究募集

国立歴史民俗博物館



研究期間

令和4年4月以降に開始し、同年度内に
終了とします。

応募資格

（以下のいずれかに該当する者）

- 大学院博士後期課程の学生
- 国内外の研究機関に所属する研究者
（常勤・非常勤を問いません。
ポストドクターを含みます。）
- 自治体の研究活動・業務に従事する
常勤職員
- その他、上記の者に準じる研究の
能力を持つ者

応募締切

令和4年1月11日（火） 必着



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国立歴史民俗博物館
National Museum of Japanese History

今回募集する共同利用型共同研究について

■館蔵資料利用型

本館が所蔵する資料を対象とした、非破壊的手法（熟覧・記録・撮影）による調査・研究を行います。

館蔵資料は、本館ホームページから、館蔵資料データベース

<https://www.rekihaku.ac.jp/doc/t-db-index.html>

をご参照ください。

■分析機器・設備利用型

本館が保有する分析機器や分析設備を用いた調査・研究を行います。

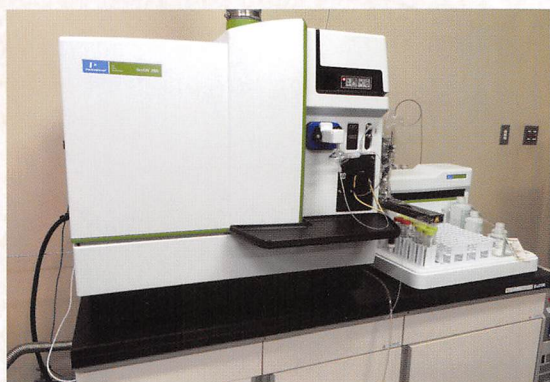
利用することのできる分析機器・設備は、本館ホームページ

[https://www.rekihaku.ac.jp/research/list/joint/public_ad/](https://www.rekihaku.ac.jp/research/list/joint/public_ad/equipmentandfacilities.html)

[equipmentandfacilities.html](https://www.rekihaku.ac.jp/research/list/joint/public_ad/equipmentandfacilities.html) をご参照ください。



本館所蔵の鯨絵 鯨父子取押之図



本館保有のICP質量分析装置

研究期間 令和4年4月～令和5年3月（1年間）

公募件数 7件程度

研究経費 30万円以内

応募にあたっては、「令和4年度国立歴史民俗博物館共同利用型共同研究公募要項」を熟読願います。

申請方法 本館ホームページ https://www.rekihaku.ac.jp/research/list/joint/public_ad/index.html#b から「令和4年度国立歴史民俗博物館共同利用型共同研究計画書」をダウンロードして作成し、所属長の承認を得たうえ、申請書類の電子データを下記メールアドレス宛に送信提出してください。（大学院生は指導教員の推薦書もあわせて提出してください。）

提出先メールアドレス kenkyo@ml.rekihaku.ac.jp

書類提出期限 令和4年1月11日（火）必着

お問い合わせ先 〒285-8502 千葉県佐倉市城内町117番地
国立歴史民俗博物館管理部研究協力課研究教育係 共同研究公募担当
Tel 043-486-6473 E-Mail: kenkyo@ml.rekihaku.ac.jp

これまでの共同利用型共同研究（令和3年度）

■館蔵資料利用型

1. 南北朝時代から室町時代前期における廣橋家の漢籍環境の研究
2. 島津氏一族発給文書の比較と島津氏関係史料の収集による中世前期武士団の研究
3. 『兼仲卿記』紙背文書にみる中世伊勢神宮領荘園の研究
4. 歴史資料画像と言語表現の対応の学習
5. 日記資料から読み解く高等女学校生の戦争および敗戦経験の検証
6. 洛中洛外図屏風を用いたAR環境教育キット作成に向けた探索的調査

■分析機器・設備利用型

1. 鉛同位体比分析から古代東アジアにおける馬具生産技術を明らかにする

歴博へのアクセス

- 京成線利用の場合 京成上野駅から京成佐倉駅（京成本線經由特急利用の場合約55分）下車、バス約5分または徒歩約15分
- JR線利用の場合 東京駅から総武本線佐倉駅（快速利用の場合約60分）下車、バス約15分
- 自動車利用の場合 東関東自動車道佐倉ICまたは四街道ICから約15分（無料大駐車場完備）



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国立歴史民俗博物館
National Museum of Japanese History

令和4年度国立歴史民俗博物館特別共同利用研究員募集要項

1. 目 的

大学の要請に応じ、大学院における教育に協力するため、本館に特別共同利用研究員を受入れるものです。

2. 募 集 人 員

若 干 名

3. 受 入 資 格

大学院の博士課程又は修士課程に在籍し、文献史学、考古学、民俗学及び自然科学を含む関連諸学に関する分野を専攻する学生。

4. 受 入 期 間

令和4年4月から令和5年3月までとします。

なお、博士課程の後期課程（区分を設けていない博士課程にあつては、これに相当する課程）に在籍する学生に限り、延長を認めることがあります。

5. 受 入 場 所

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館（千葉県佐倉市城内町117番地）

6. 指導教員及び研究指導項目

別紙のとおり。

7. 提 出 書 類

- (1) 所属する大学院の研究科長の委託書（様式1）
- (2) 所属する大学院の指導教員の推薦書（様式2）
- (3) 当該学生の履歴書、研究業績書（様式3）

8. 提 出 期 限

令和4年1月11日（火）必着

注：書類提出に先立ち、所属する大学院の指導教員並びに本館の指導教員と受入れについて十分相談し、了承を得た上で申請してください。

9. 書 類 提 出 先（書留で郵送のこと）

〒285-8502 千葉県佐倉市城内町117番地 TEL 代表 043-486-0123

国立歴史民俗博物館 管理部研究協力課大学院担当 TEL 043-486-4361

10. 受 入 れ の 決 定

提出された書類に基づき、本館教務委員会での審査の上館長が決定し、その結果を当該大学院研究科長及び本人に通知します。

11. 研究指導に係る費用

国公立大学のすべての大学院学生は無料とします。

12. そ の 他

- (1) 研究指導の内容等に関しての照会は当該指導教員にお願いします。また、事務手続きに関しての問い合わせは管理部研究協力課大学院担当宛にお願いします。
- (2) 本館では学位論文の作成等の研究指導は行いますが、学位論文の審査や学位の授与、修得単位の認定等は当該学生が在籍する大学院で行うことが前提となっています。
- (3) 本館では、災害補償制度は準備していません。あらかじめ所属大学で、日本学生支援機構の行っている学生教育研究災害傷害保険等に加入してください。
- (4) 本館では、特別共同利用研究員の宿舍の用意はありません。
- (5) 本館の事業と教員紹介は本館のホームページ（<http://www.rekihaku.ac.jp/>）を参照してください。

指導教員及び研究指導項目

あなたの研究に合う指導教員がきっと見つかります。研究指導にかかる費用は徴収しません。

博物館を有する大学共同利用機関としての特性と利点を活かし、専門家の指導と、実物資料に基づく多様な分析方法の活用によって、高度な総合的能力をもつ研究者の教育を目指しています。

(五十音順)

青 木 隆 浩	近現代の商家研究, 社会規範研究
荒 木 和 憲	中世日本国際交流史
上 野 祥 史	古代東アジアの墳墓と金工品の考古学研究
内 田 順 子	近代日本における映像民俗学 (映画技術, 作品の歴史的・文化的背景, 民俗学との関わり)
大久保 純 一	浮世絵, 江戸後期の風景表現
小 倉 慈 司	日本古代文献史料論
川 村 清 志	祭礼, 民俗芸能を中心とした民俗文化
小 池 淳 一	民俗信仰の史的研究, 口承文芸の研究, 読み書きと民俗をめぐる学際研究, 日本民俗学史に関する研究
小瀬戸 恵 美	自然科学的手法による歴史・文化財資料の材質分析と産地推定
後 藤 真	人文情報学・特に日本史学に対して情報技術を応用した研究
齋 藤 努	自然科学的な手法を用いた歴史資料の材質, 物性, 製作技法, 原料の産地などに関する研究
坂 本 稔	炭素14年代法
澤 田 和 人	日本の染織史
島 津 美 子	自然科学的手法 (顕微鏡観察, 元素分析など) による彩色材料の材質分析 (顔料, 染料など)
鈴 木 卓 治	博物館における研究・展示・広報を支援する情報システム (ソフト・ハード) の研究, 色彩と画像の情報処理
関 沢 まゆみ	社会と儀礼に関する民俗学的研究, 高度経済成長と生活変化
高 田 貫 太	外来系の考古資料に基づく古代 (主に弥生～古墳時代) の日朝関係史
田 中 大 喜	中世武士団・武家政権論, 中世地域社会論
仁 藤 敦 史	都城制成立過程の研究, 古代王権論, 古代地域社会論
林 部 均	古代宮都の研究, 古代地域社会の研究
樋 浦 郷 子	帝国日本の教育と宗教
樋 口 雄 彦	明治期の社会・文化と旧幕臣の動向
日 高 薫	蒔絵を中心とする漆工芸史
福 岡 万里子	幕末外交史, 19世紀東アジア国際関係史, 日欧交渉史
藤 尾 慎一郎	先史時代の農業への転換, 鉄生産の歴史, 年代歴史学
松 尾 恒 一	民俗宗教, 民間信仰の研究, 職能者の祭儀と呪術, 寺社の儀礼研究, 東アジアにおける異文化の接触と変容の研究
松 木 武 彦	古墳時代の考古学的研究, 武器と戦争の考古学的研究, 進化・認知科学に基づく理論考古学
松 田 睦 彦	生業の技術・信仰・人の移動
三 上 喜 孝	出土文字資料を中心にした古代東アジア文字文化の研究
村 木 二 郎	中世日本の流通・技術・信仰に関する考古学的研究
山 田 慎 也	死と葬送儀礼の近代化に関する研究
吉 井 文 美	近代日本外交史・近代東アジア国際関係史
吉 村 郊 子	生業と環境利用の変遷に関する人類学的研究

※指導教員は、人事異動等により変更する場合があります。

年 月 日

国立歴史民俗博物館長 殿

大学院研究科の長

所 属

氏 名

印

国立歴史民俗博物館への大学院学生の委託について（依頼）

このことについて、下記の者を貴博物館の特別共同利用研究員として委託したいので、
よろしくお取り計らい願います。

記

(ふ り が な)
氏 名

生 年 月 日 年 月 日生 (歳)

現 住 所 (郵便番号 -) (TEL.)

所属大学院および専攻名 大学大学院 研究科 専攻

所属大学院における在籍区分 修士 ・ 博士課程の別 (年度第 年次)

所属大学院における指導教員名

委託希望の研究課題名

委託希望の指導教員名

委 託 希 望 期 間 年 月 ～ 年 月

本館特別共同利用
研究員としての在籍 有 (年 月 ～ 年 月) ・ 無

推 薦 書

年 月 日

国立歴史民俗博物館長 殿

指 導 教 員

所 属 ・ 職

氏 名

印

貴博物館の特別共同利用研究員として下記の者を推薦いたします。なお、貴博物館における委託希望教員の内諾を得ていることを申し添えます。

記

推薦する学生の氏名・所属研究科・専攻名

委託希望の指導教員名

推薦理由（評価を含む）

履 歴 書

年 月 日 現在

ふりがな	印	性 別	年 月 日生
氏 名		男 女	満 歳

現住所 〒	電 話 ()
	E-mail

年	月	学 歴	入学・卒業・ 修了・退学
自			
至			
自			
至			
自			
至			
自			
至			
自			
至			
自			
至			

※ 学歴は高等学校から記入のこと

年	月	職 歴 (学会及び社会における活動等を含む)
自		
至		
自		
至		
自		
至		
自		
至		
自		
至		

研究業績書

専 門 分 野			
卒 業 論 文 名			
修 士 学 位 論 文 名			
著 書 及 び 学 術 論 文 名	発 行 又 は 発表年月日	掲 載 誌 名 又は学会名	発 行 所 (著書のみ)

志 望 研 究 内 容

◎国立歴史民俗博物館特別共同利用研究員として、志望する研究題目及びその研究内容について、簡潔に記入すること

研究題目：

[illegible]